

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901688		
法人名	有限会社旭川高齢者グループホーム		
事業所名	グループホームほーぷ旭川		
所在地	旭川市永山6条11丁目1-27		
自己評価作成日	平成23年9月	評価結果市町村受理日	平成24年1月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901688&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スーパーや小学校が近く、利用者が買い物に行きたいと要望があれば、買い物に歩いていくことが可能である。各居室に洗面台とトイレが完備されている。法人内のグループホームなどと連携し、地域の利用者を支援している。かかりつけ医の受診の支援に力をいれており、人工透析の通院を含め、通院支援は事業所対応としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)ホームの環境は閑静な住宅街、下水道緑景観モデル地域として遊歩道・水路・広場などが設備され、病院やスーパーも近く、生活・交通至便な環境にある。
- 2)職員の態度は利用者本位で尊厳ある支援に努め、やさしく、温かなサービスの創出に努めている。
- 3)利用者の生活状況は、各室の洗面・トイレの設備などで個々の生活の自由さや快適さに配慮されて、楽しい生活を享受している。
- 4)運営推進会議の状況は旭川市の参加もあり、これまで三回実施して、参加者の意見を運営に活かすよう努めている。
- 5)地域との交流は、買い物や散歩、町内会の行事等に参加して深めている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに本部の方で月1回勉強会を開き参加したり、グループホームの方でも月1回ミーティングを開き話し合いをしている。	本部研修のほか、月1度の定例職員会議で関係法に基づく理念を確認し行動規範としている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。地域の清掃作業に参加するよう努めている。近所の方が時々家庭菜園の野菜を持ち寄ってくれる。	町内会に参加して行事をともにし、近隣の付き合いも重ねて交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はおこなっていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年から2ヶ月に1回開催し、活動内容や入居状況、外部評価の結果について報告し防災訓練の話し合いをしている。	行政、介護支援専門員、町内会長などを含む参加で2ヵ月毎に開催、事業内容や管理上の課題を協議している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年から運営推進会議に市の介護高齢課の方も参加され、話し合いをしている。生活保護のケースワーカーとも情報交換をおこなっている。	介護事業担当との協議や利用者関連の事項等につき行政担当とも情報を交流して協力関係を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はおこなっていないが、事故防止のためにセンサーを設置している。夜間は防犯上施錠している。身体拘束のないケアに努めているが、転倒する恐れのある方には家族の方と相談し同意を得てベッド柵を使用したり、センサーマットを使用している。	指定基準の順守に留意した職員間の共有を図るとともに、困難ケースは家族と協議して対応に当たっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会は開催していないが、今後のミーティングで話し合いをしていきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については把握しているが、他職員の理解も含め検討や活用に至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に重要事項説明書を渡し説明し、御家族の方に理解・納得してもらっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に内部相談窓口、外部相談窓口を載せている。施設内にも外部、内部の相談窓口を掲示している。	日常的なかかわりから利用者の意向の吸収に努めて可能な限り運営に反映している。	運営上の利用者・家族の意向把握はアンケート、定例的な調査、運営推進会議等での意見を反映等、積極的で具体的な聴取方法の試みを期待する。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で業務に関して意見や提案があり、試しに実行し良ければ変えていることが多い。ミーティングでも話し合いをしている。	定例会議での職員間の協議での意見反映や日常的な事項に関わって意見などを記録して連絡し、その課題を協議している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士の資格を取ったスタッフに給与の見直しをしたり、職場環境・条件の設備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回を目途に本部の方で職員の研修会(緊急時対応、事故防止対策、個人情報保護など)の勉強会をおこなっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターがサービス事業所を対象とした研修会を開催しており、可能な限り参加に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様からの訴えを聞き可能な限り本人の要望に答えられるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望があれば事前に施設見学をしてもらい、話し合いを重ね、不安の解消に努めている。家族の心理的な葛藤を緩和できるように支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に家族または居宅事業所からの情報を得て必要なサービス提供ができるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務を優先しがちになるが、和やかな生活ができるように、喜怒哀楽を分かち合い、共に支え合えるような関係作りを考えてケアしている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様から外泊・外出の希望や面会の希望があったとき家族に連絡し、可能な限り依頼している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り家族の方や親族の方の交流ができるように支援している。	近隣との交流、家族訪問の際の対応や常連家族の支援があり、ホームの生活に活気を注いでくれている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が崩れないよう支えあい見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院しても病院に行き様子を見に行き病院・家族から経過を聞いている。また、荷物を預っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や暮らし方、習慣、好きなことなどについて、本人・家族から情報収集をおこなっている。	日々の生活を通して趣向・好き嫌い、習慣性など個々の意向を受け止め具体的な支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やなじみの暮らし方など家族から情報を得てサービス提供できるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態、有する力などの把握につとめているが、本人の希望で有する力を発揮できない場合もある。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見・意向、モニタリングやアセスメントを踏まえ、サービス担当者会議にて職員間で話し合いを行い、ケアプランを作成している。	利用者の心身の状況や生活情報を下に職員が協議を重ねるとともに、家族などの意向等を受け止めて適切なアセスメントの基に介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的計画見直しは3ヶ月ごととしている。状態変化があったときは、再アセスメントを行い、随時で計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の対応は施設で行っている。近くのスーパーまで買い物に行くなど、外出支援をしている。家族が宿泊するときは、寝具の貸し出しも可能である。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人からの傾聴を元にし、把握に努めている。残存能力を大切にしつつ、安全・安楽な生活を支援できるように努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なるべく希望を大事にし、受診しているが、病院がホームから遠いところは家族と相談し、近くの病院への転院もおこなっている。	利用者が選ぶかかりつけ医の受診を支援し、希望に応じて家族等と相談して変更への支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在の為、利用者の方に異常があった場合は施設長に連絡し指示を仰ぎ受診をおこなっている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1週間に1回程度入院している病院に行き状態の情報を得よう努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師不在の為難しい部分がある。ホームで出来る範囲内で支援できるように努めている。	重度化や終末期への対応は、連携医療機関と事業所とが事前に申し合わせを行い、その方針を協議し家族の意向に伝える指針が出来ていない。	前年度の目標計画事項である対応指針を示すよう期待する。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践については本部にて勉強会をおこない、備えている。また急変時の連絡網を作成している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で災害対策について話し合いを行い協力が得られるように呼びかけをしている。	災害訓練の年2回の実施、運営推進会議での近隣の協力関係の協議などははかっている。	なお、災害に備えた備品等の準備について検討を期待する。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員相互が利用者の表情・表現に留意して、その意図を汲み取りプライバシーの尊重に努めている。	利用者個々の個別性の大切さを月例会で確認して、誇りや個別性の尊厳を支援している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望の表出には最も留意して、その意図や想いを確かめ、文字にして確認するなど自己決定への支援に努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	病院受診の関係で時間に追われ、業務に沿った生活になっている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特別な支援はおこなっていない。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを提供したり、下膳をしてもらったり、テーブル拭きをしてもらっている。	食事の趣向を把握し、意向を聞き、ともに準備し片付けるなど食事の機会を楽しみ多い時とするよう努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量については摂取量が少ない方は受診し、エンシュアをもらって補ったり、水分量が少ない方にはジュースや好きなものを提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、本人の力に応じた口腔ケアをおこなっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に応じたトイレでの排泄を心がけているが、おむつの使用を減らすまでの支援はおこなっていない。	個々の自立ある排泄ができるよう留意するとともに、個人的な状況をとりえ個別の支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病院と相談し下剤を調整し、便秘の予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務を優先に時間や曜日を決めて支援している。	利用者の状況に応じて時間・曜日を決め、意向に応じた楽しい入浴を勧めている。	火・金曜日を固定化しているため、利用者個々の状況に応じた清拭など清潔感を支援するなど、更なる弾力的な工夫が求められる。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方は病院と相談し眠剤を内服し夜間眠られている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の力に応じて内服確認や介助をおこなない、拒薬や変化があった場合は受診し対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの生活歴や力を活かし張り合いのある生活が送れる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーまでは希望に応じ支援しているが、遠くの場所は家族に依頼している。	外出支援の意向に合わせながら景観モデルの「せせらぎどおり」や買い物など、生活の開放感を支えるよう工夫している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとりひとりの希望や力に応じて、支援しているが、自ら隠し忘れてしまい騒ぐ方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設に公衆電話があり、やり取りできる方は利用している。公衆電話から掛けられない方で希望されるときはスタッフが掛けまく伝えられないときは代弁するようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については気になることはない。時期によっては季節感を出すために飾りつけすることもある。	1階居間は南に面して明るく、季節や行事などの展示、装飾で親しみある場として温・湿度の調節もよく、食堂も兼ね最もくつろげるよう配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所の工夫はしていないが、気の合った利用者同士で食堂で談話されている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の方から相談され使い慣れたものや好みの物を持って来てもらっている。	各個室はトイレ・洗面所・戸棚が敷設しており、調度品も利用者の趣向や家族との思い出の品や置物など、個別性と馴染みある生活が過ごせるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるようにエレベーターの入り口に表札を作って貼ったり、トイレの場所がわからない方には居室トイレに張り紙を貼って少しでも自立した生活が送れるように支援している。		